



「ゆるい」が「おいしい」をつくる。

シードラウンドで総額約6,000万円の資金調達を実施 新規就農者がすぐに農業を開始出来る仕組み「LEAP」を開発・提供開始

— 新規就農者が直面する5つのストレスを解決 —

seak株式会社（東京都港区、代表取締役：栗田 紘、以下：seak）は、寺田倉庫株式会社、三菱UFJキャピタル5号投資事業有限責任組合、個人投資家を引受先とした総額約6,000万円の第三者割当増資を実施し、同時に、農業未経験の新規就農者がすぐに農業を開始し、活躍出来る仕組み「LEAP（リーブ）」の提供を開始致します。今回調達した資金により、新規就農者の採用を含めた生産体制の拡大を行い、「LEAP」により栽培した野菜「ゆる野菜」の生産・販売を行います。

seak URL : <http://seak.asia>

Point

- 農業を仕事の主とする基幹的農業従事者の平均年齢は、平成27年で67.0歳と高齢化が進行^{*1}
- 既存の農業では、新規就農者は5つのストレスに直面する
- 独自の栽培ノウハウと、安心安全な資材を中心とした就農者向けの仕組み「LEAP」
- LEAPにより栽培された高品質な野菜「ゆる野菜」



● seakについて

seakは、農業未経験者である新規就農者が、いきなり農業で活躍出来る仕組みづくりをミッションとした、日本の農業の未来をつくる農業ベンチャーです。

日本における農業を仕事の主とした基幹的農業従事者の平均年齢は、平成27年で67.0歳となり高齢化が進んでいます^{*1}。日本の農業が直面する高齢化・担い手問題を解決する為に、新規就農者がいきなり農業で活躍出来る仕組み「LEAP」を通じて、seakは日本の農業に存在する5つのストレスを解決していきます。ストレスがないことを「ゆるい」という言葉で表現しています。

^{*1}：出所 農林水産省「農林業センサス」

● 新規就農者が直面する5つのストレス

新規就農者は農業を始める際に、① 研修に2年程度の時間がかかる（準備）、② 研修後もなかなか農地が見つからない（農地）、③ 園芸ハウスは高価である（施設）、④ 育ててもうまくいかない（栽培）、⑤ 結果大面積栽培で薄利多売となる（販売）という5つの課題・ストレスに直面します。

「LEAP」は、これらのストレスを解決します。つまり新規就農者が、① 事前の準備は不要で、② 既に農地は確保され、③ 必要最低限の栽培施設で、④ 栄養価の高い野菜を栽培出来るノウハウを使って、⑤ 良質な販路を通じて、農業をスタートすることが出来る仕組みを実現していきます。

● seak独自の栽培ノウハウと、安全性の高い資材

野菜のストレスに主眼を置いた、Probiosis（プロバイオシス）という独自の栽培ノウハウを用いています。植物生理学に基づいた科学的根拠を裏付けとして、お茶や米ぬかなどを発酵させた自然由来の液体酵素に含まれる微生物の力を借りて、植物の健康・代謝を最大化させるアプローチです。これによって、無農薬栽培が可能となります。

また、畑の土を使わずに、ココナッツ繊維や貝化石など、液体酵素同様に自然由来の原料にこだわって配合した土を袋に入れて栽培する、袋栽培という形を取っています。これによって、土壌に過剰に蓄積した肥料や農薬の心配もなく、耕作放棄地であっても理想的な環境で栽培をスタート出来ます。自然由来の安心安全な資材を根幹に置いた、農業の未来のあるべき姿に符合する栽培ノウハウです。

● LEAPで育てた野菜「ゆる野菜」

栄養たっぷりで、おいしくて、そして安心。この全てを野菜に詰め込みたい。今までの農業では、それは不可能だと思われていました。なぜなら野菜にストレスをかけていたからです。味にこだわると、栄養バランスが崩れる。栄養バランスを整えようとする、農薬が必要になる。

私たちは野菜作りの原点に立ち返り、野菜が抱えるストレスを軽くすることで野菜が持つ最大限の力を引き出すことに成功しました。それを「ゆるく育てる」と表現しています。

ゆるく育てる「ゆる野菜」は単なるブランド野菜ではありません。野菜の、そして農業の未来だと信じています。（詳しくは、ゆる野菜WEB <http://yuruyasai.com>）



袋栽培の様子



seak独自の土



ゆる野菜ロゴマーク

本件に関するお問い合わせ先

seak株式会社 広報IR担当 090-1793-9872 / hiro@seak.asia

seakが構築する「LEAP」の特徴

	既存の農業 (5つのストレス)	LEAP
準備	農家になる為、2年程度*の研修が必要になる。 *自治体により異なります。	即日で農業を開始出来る。 事前の学習も不要。
農地	研修を終えても紹介してもらえないのは耕作放棄地。	seakが確保する農地を活用することが出来る。
施設	資金がないので十分な設備が手に入らない。融資条件も厳しい。	必要最低限の仕様と直接仕入で費用を圧縮。
栽培	栽培を始めてもうまくいかないので大面積栽培になる。	栄養価の高い野菜を栽培出来る独自ノウハウがある。
販売	結果、販路開拓に注力出来ず薄利多売（市場出荷）になる。	統一ブランドで独自の良質な販路へ。

2つの独自栽培ノウハウ

Probiosis

良い微生物を独自の液体酵素を通じて外から積極的に投入する。

微生物の力を借りることで光合成反応を含めた植物の健康・代謝量を最大化するアプローチが、Probiosis。

農薬の使用・植物工場による滅菌などによって微生物を排除する（Anti-biosis）必要がなく、安心して低コスト。

袋栽培

畑の土を使わずに、独自の土を袋に入れて栽培。

土づくりと言われる農家の知恵や感覚を用いた長年の作業をすることなく、すぐに理想的な環境で栽培を開始する事が出来る。

使う畑が耕作放棄地であったり、過去どのような使われ方をしたのか（蓄積肥料・農薬）の心配がない。

- seak株式会社について

所在地： 東京都港区麻布十番2-8-10 麻布松屋ビル4F / 圃場所在地： 神奈川県藤沢市

設立： 2014年4月10日 / 資本金： 63,010,000円（資本準備金含む）

代表者： 代表取締役社長 栗田 紘

事業内容： 農作物の生産・販売、農業技術プラットフォームの構築

本件に関するお問い合わせ先

seak株式会社 広報IR担当 090-1793-9872 / hiro@seak.asia